



# 2023年度 画像診断レポート委員会 成果報告



一般社団法人 日本画像医療システム工業会（JIRA）  
医用画像システム部会 画像診断レポート委員会 委員長 原 真

# 画像診断レポート委員会：前期までの活動経緯

刊行物

有償配布

- ▶ コンプライアンス・ハンドブック
- ▶ Data Book
- ▶ 導入実態調査報告書
- ▶ 法規・安全 標準化 関連物
- ▶ 医療機器産業入門

公開資料

- ▶ JIRA市場統計

指針・標準・基準等

- ▶ 工業会規格(JESRA)
- ▶ モニタ
- ▶ セキュリティ
- ▶ 診断レポート
- ▶ 動物
- ▶ COVID-19 感染予防

JIRA会報等

刊行物：指針・標準・基準等

工業会規格(JESRA) モニタ セキュリティ 診断レポート 動物 COVID-19 感染予防

診断レポート

NEW 放射線レポートの既読管理参考資料の公開 (2023/03)

令和4年の診療報酬改定で、A234-5 報告書管理体制加算(退院時1回) 7点が新設された。  
この改定は以前から問題となっていた画像診断レポートの見落としを防止するための施策となっている。  
JIRA画像診断レポート委員会では、本資料をメンバー内で確認し、JIRA参加ベンダーのシステム構築時の参考になるための本資料を作成した。  
システム検討時には、本資料を参考にして頂ければ幸いです。

公開資料

- [放射線レポートの既読管理参考資料](#)

※閲覧にはJIRA会員IDおよびパスワードが必要です。

2023年：放射線レポート既読管理  
(セミナー、資料作成)

2022年：CSV⇒CDA変換ツールの公開

2021年：CSV⇒CDA変換ツールの作成

2019年：CDAチェックツールの作成

2017年：CDA出力・取込ツールの作成と公開

2015年：画像診断レポート交換手順ガイドラインの制定

- 1) 放射線レポートの既読管理参考資料の公開
- 2) FHIRについての調査
- 3) 放射線レポートの既読管理セミナー  
(JIRA10月度政策企画会議／特定テーマ講演)
- 4) パンフレット製作

# 画像診断レポート委員会：①既読管理参考資料の公開

2022年度に検討済みの放射線レポートの既読管理参考資料をホームページ上に公開しました。

刊行物：指針・標準・基準等

工業会規格(JESRA)

モニタ

セキュリティ

診断レポート

動物

COVID-19  
感染予防

## 診断レポート

### ■ **NEW** 放射線レポートの既読管理参考資料の公開 (2023/03)

令和4年の診療報酬改定で、A234-5 報告書管理体制加算(退院時1回) 7点が新設された。

この改定は以前から問題となっていた画像診断レポートの見落としを防止するための施策となっている。

JIRA画像診断レポート委員会では、本資料をメンバー内で確認し、JIRA参加ベンダーのシステム構築時の参考になるための本資料を作成した。

システム検討時には、本資料を参考にして頂ければ幸いです。

### 公開資料

#### ■ 放射線レポートの既読管理参考資料

※閲覧にはJIRA会員IDおよびパスワードが必要です。

# 画像診断レポート委員会：①既読管理参考資料の公開

「画像診断報告書等の確認不足に対する医療安全対策の取組について」  
 の資料3「画像診断レポート、病理診断レポート見落とし防止対策システムの機能仕様項目」

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000898781.pdf>

について詳細検討を行ない、JIRAとしてのコメントを出すことで、  
 レポートベンダーの構築時に有効利用して頂くことを目的としました。

## 当委員会での検討結果

No	システムの機能仕様項目	機能として実装の必要性 4:非常に高い 3:高い 2:普通 1:低い	実現が期待される時期 3:できるだけ早く実現が望まれる 2:早期実現が望まれる 1:実現が望まれる	コメント	JIRAコメント	想定難易度 3:高 2:普通 1:低	HISとの連携が必要
3.1	画像検査オーダーで入力されたオーダー医等の連絡先(PHS番号、内線番号等)が表示されること。	2	2		医師の連絡先はHISとの連携が必要になる。 1)オーダー内容に依頼医師の連絡先を入れてもらう。 2)ユーザーマスターを連携する。 のどちらかの連携が必要となるため、事前にHISメーカーとの協議が必要。	2	○
3.2	画像診断レポートは、所見フィールド、診断フィールドが分離した構造とし、レポート作成画面とレポート表示画面で表示順を変更することができること。	3		レポート記載は所見→診断の順、 2レポート表示(閲覧)は診断→所見の順が好ましい。	表示順変更は運用開始後だと難しい場合もあるため、構築当初から検討して決めておく事を推奨する。		1
3.3	画像に重要所見があった場合、文字色、文字サイズを変更してレポートを作成できること。	2	1	プレーンテキストでしか連携できないシステム(同一施設内、多施設間、システム更新時)は目立たないだけでなく、取り消し線は意味が逆に伝わる危険性あること等を認識して、システム導入を行う必要がある。レポートは文字修飾がなくても理解できる表現で記載し、文字修飾はあくまで重要所見の視認性の向上を目的とするべきである。	レポートデータをテキストではなくリッチテキストやHTMLなどで持つ必要がある。 表示する端末によっては見え方が異なるケースもあるので注意が必要。(特に文字サイズ) また、データ移行時や多施設連携時に実装が困難となるケースもある。 なお、取り消し線については検索対象外にするなどの工夫が必要となるので注意が必要である。		3

# 画像診断レポート委員会：②FHIRについての調査

現時点でのFHIRの状況について、まずWeb等で状況調査を行った。  
放射線レポートについては、「JP Core DiagnosticReport Radiology Profile」が完成している。  
<https://jpfhir.jp/fhir/core/1.1.1/StructureDefinition-jp-diagnosticreport-radiology.html>



HL7 FHIR JP Core ImplementationGuide  
1.1.1 - release

FHIRJP Guidances ▾ FHIRContents ▾ Security Artifacts Download

Table of Contents > Artifacts Summary > JP Core DiagnosticReport Radiology Profile

HL7 FHIR JP Core ImplementationGuide - Local Development build (v1.1.1). See the [Directory of published versions](#)

Content Detailed Descriptions Examples XML JSON

## 6.16.1 Resource Profile: JP Core DiagnosticReport Radiology Profile

項目	内容
定義URL	<a href="http://jpfhir.jp/fhir/core/StructureDefinition/JP_DiagnosticReport_Radiology">http://jpfhir.jp/fhir/core/StructureDefinition/JP_DiagnosticReport_Radiology</a>
Version	1.1.1
Name	JP_DiagnosticReport_Radiology
Title	JP Core DiagnosticReport Radiology Profile
Status	Active ( 2022-10-24 )
Copyright	Copyright FHIR Japanese implementation research working group in Japan Association of Medical Informatics (JAMI) 一般社団法人日本医療情報学会 NeXEHS課題研究会FHIR日本実装検討WG

FHIRJPから引用

# 画像診断レポート委員会：②FHIRについての調査

こちらの発行元は一般社団法人日本医療情報学会NeXHERS課題研究会FHIR日本実装検討WGとあったので、コンタクトを取って、現状把握を含めてミーティングを数回行ない、知識を深めた。

CDAとFHIRで一番の違いは、CDAはファイル一つで放射線レポートが完結するが、FHIRの場合は複数のProfileを組み合わせて使用することである。

FHIRの放射線レポートProfileでは、読影時に入力される項目は保持しているが、患者情報、オーダー情報、撮影情報などは別のProfileで保存されているため、使用用途に応じて複数のProfileを組み合わせて(バンドル)、使用することになる。すなわち放射線レポートProfileはレポートの状態や所見、添付画像などシンプルな構成ですむ。

CDAとFHIRの違いを明確にするためにマッピングしてみることにした。

# 画像診断レポート委員会: ②FHIRについての調査

黄色枠の部分が入力必要部分である。

Text: レポート本文、identifier: Accession番号など紐づける番号、Status: 診断レポートの状態

Name1	Name2	Name3	Flags	Card	Type	備考	CDA
				0..*	JP_DiagnosticReport_Common		
id			Σ	0..1	id	リソースの URL で使用されるリソースの論理 ID。作成送信時には無くてもよい。	
meta			Σ	0..1	Meta	Meta.versionIdあり	8
implicitRules			?! Σ	0..1	uri		
language				0..1	code		
text				0..1	Narrative	人が読める形式で提示された情報。放射線レポートの場合はレポートの所見が保持される。 ※所見だけでなく、レポート情報全体をテキスト情報として保持する必要がある。	Report Section 全体
contained				0..*	Resource		
extension				0..*	Extension		
modifierExtension			?!	0..*	Extension		
identifier			Σ	0..*	Identifier	レポートを識別するビジネス識別子。 通常は診断サービスプロバイダの情報システムにより設定される。 【JP Core仕様】レポート番号 (放射線情報システム(RIS)による発番が想定されるが、施設によって電子カルテ等のオーダ番号を使う場合もあり得る) ※レポート番号かAccession番号が用いられそうだが、どちらか？	3.2 101
basedOn			S	0..*	Reference	検査や診断の依頼の元になったもの。 通常はServiceRequestあるいはCarePlan(治療や抗がん剤投与等により検査を行うことが必須の場合、 根拠となった事象を追記することは制限しない)	
status			?! Σ	1..1	code	診断レポートの状態 【JP Core仕様】・診断レポートのステータス ・定義通りの選択肢(例: preliminary 一次読影, final 二次読影(完了)等)を利用。	9005
Slices for category			S Σ	1..*	CodeableConcept	レポートを作成した臨床分野・部門、または診断サービス(CT, US, MRIなど)を分類するコード。これは、検索、並べ替え、 および表示の目的で使用される。 【JP-Core仕様】放射線レポートは "RAD" をデフォルトとして設定。 特に検査種別を含む部門指定を指定したい場合は "RUS", "RX", "CT", "NMR", "NMS", "VUS", "OUS", "CUS"などを指定する、 ここでは複数のコードが許容される	
category: radiology			Σ	1..1	CodeableConcept	同上?	
	id			0..1	id		
	extension			0..*	Extension		
	coding			1..*	Coding	Fixed Value: (complex)	
	id			0..1	id		
	extension			0..*	Extension		
	system			1..1	uri	Fixed Value: <a href="http://terminology.hl7.org/CodeSystem/v2-0074">http://terminology.hl7.org/CodeSystem/v2-0074</a>	
	version			0..1	string	システムのバージョン	
	code			1..1	code	Fixed Value: RAD	
	display			0..1	string		
userSelected			0..1	boolean			
text				0..1	string		



# 画像診断レポート委員会：②FHIRについての調査

FHIRの項目にCDAをマッピングしてみることにした。黄色枠の部分が入力必要部分である。

subject: 患者、encounter: 依頼情報、effective[X]: レポート作成日時

Issued: レポート確定日時、performer: レポート確定者、resultsInterpreter: 確定者以外の関連者

subject		S	Σ	0..1	Reference	レポートの対象、常にではないが、通常は患者。 参照は実際のFHIRリソースへの参照であり、解決可能である必要がある。解決はURLから取得するか、または、リソースタイプが利用できる場合は絶対参照を正規URLとして扱い、ローカルレジストリ/リポジトリで検索する。 【JP Core仕様】Patient リソースを参照⇒患者属性が含まれる	9.3.5.3.2 9.3.5.3.3 9.3.5.4.1 9.3.5.4.3 9.3.5.5.1
encounter			Σ	0..1	Reference	依頼時におけるヘルスケアイベント(受診など)。 これは通常、レポートの作成が発生するEncounterだが、一部のイベントはEncounterの正式な完了の前または後に開始される場合がある(例えば入院前の検査)。その場合でも(入院に関連して検査が行われる場合など)、Encounterのコンテキストに関連付けられる。 【JP Core仕様】このレポートを書く切っ掛けとなる Encounterリソース(例:術前検査の場合、術前訪問)を参照	102~106
effective[X]		S	Σ	0..1	dateTime	臨床的に関連する時刻または時間。 【JP Core仕様】レポート作成日時 (DateTimeを採用し、Periodは不使用)	10.3.1
issued		S	Σ	0..1	instant	このバージョンが作成された日時。 リソース自体の更新時間とは異なる場合がある。これは、レポートの実際のリリース時間ではなく、レコード(場合によってはセカンダリコピー)のステータスであるため。 【JP Core仕様】レポート確定日時	5.1 15.2.1
performer		S	Σ	0..*	Reference	臨床診断レポートに対して責任を持つもの。 【JP Core仕様】レポート確定者	15.4.2.2 15.4.3.3.2 15.4.3.3.3
resultsInterpreter		S	Σ	0..*	Reference	レポートの結論や読影に関わる医師や組織 必ずしも診断レポートに対して責任を持つものを示すわけではない。 【JP Core仕様】但し、一次読影や二次読影などの役割 (Practitioner Roll) の指定方法はペンディング ⇒ <b>確定者以外の関連する医師を記載することで良いと思われるが、役割が無いという問題が残る。</b>	14.5.2.2 14.5.4.3.2 14.5.4.3.3

# 画像診断レポート委員会: ②FHIRについての調査

FHIRの項目にCDAをマッピングしてみることにした。黄色枠の部分が入力必要部分である。

ImagingStudy: 検査画像、media: キーイメージ、conclusion: レポートの結論 (Impression)  
 conclusionCode: 結論となるコード (ICDコードなど)、presentedForm: 添付書類

imagingStudy			S	0..*	Reference	実行された画像検査の完全な詳細に関する1つあるいは複数のリンク。通常、これは DICOM対応モダリティによって実行されるイメージングだが、DICOMであることが必須ではない。完全に有効な PACS ビューアは、この情報を使用してソース イメージのビューを提供できる。 【JP Core仕様】・対象となるImagingStudyリソースを参照 ・放射線レポートでは検査実施後には必須(複数もあり得る)	17.3.5.3.9.4.4.2
media			Σ	0..*	BlackboneElement	このレポートに関連付けられているキーイメージの一覧。 【JP Core仕様】キーイメージを設定	17.3.5.3.9.4.4.2
	id			0..1	string		
	extension			0..*	Extension		
	modifierExtension		?!	Σ	0..*	Extension	
	comment			0..1	string	イメージに関するコメント。通常、これは画像が含まれる理由を説明したり、依頼者の注意を重要な内容に引き付けるために使用される。コメントは、画像と共に表示される。レポートでは画像の内容に関する追加の議論が、DiagnosticReport.textやDiagnosticReport.conclusionなどの他のセクションに含まれるのが一般的である。 【JP Core仕様】キーイメージの説明	無いかも
	link		S Σ	1..1	Reference	イメージ ソースへの参照。 参照は実際のFHIRリソースへの参照であり、解決可能である必要がある。解決はURLから取得するか、または、リソースタイプが利用できる場合は絶対参照を正規URLとして扱い、ローカルレジストリ/リポジトリで検索する。 【JP Core仕様】キーイメージの参照先	17.3.5.3.9.4.4.2
conclusion			S	0..1	string	診断報告書の簡潔かつ臨床的に文脈化された要約結論 FHIRのstringsは1MBを越えてはならない (SHALL NOT) ことに留意すること。 【JP Core仕様】放射線レポートの結果/結論/インプレッションの文章を記載	302
conclusionCode				0..*	CodeableConcept	診断レポートの要約の結論 (interpretation/impression) を表す 1 つ以上のコード。 すべての用語の使用がこの一般的なパターンに適合するわけではない。場合によっては、モデルにcodeableConceptを使用せず、コーディングを直接使用して、テキスト、コーディング、翻訳、および要素間の関係と事前調整および事後調整を管理するための独自の構造を提供する必要がある。 【JP Core仕様】放射線レポートの所見の結論となるコードを設定。例えば、ICD 病名コード	無いかも
presentedForm			S	0..*	Attachment	診断サービスによって発行された結果全体のリッチ テキスト表現。複数の形式は許可されるが、意味的に等価である必要がある。 "application/pdf" がこのコンテキストで最も信頼性が高く、相互運用可能なアプリケーションとして推奨される。 【JP Core仕様】添付するXHTMLやPDFなどの文書	全て

# 画像診断レポート委員会：②FHIRについての調査

このようにマッピングすると、FHIRの項目数はそれほど多くない。(16項目程度)

注意すべき項目としては「Identifier」がある。

こちらはレポートのキー番号になる部分だが、複数記載が可能なので、レポートシステムで保存している下記のような番号を記載することが好ましいという結論になった。

## ・Identifier

すべて必須ではなく複数記載を推奨。

- 1) ACCESSION番号: 通常オーダー番号と紐づけられる番号でオーダーと画像との連携の2つをカバーできる。(オーダー連携していない施設ではない場合がある)
- 2) StudyInstanceUID: 画像と紐づけられるが、オーダーとの紐づけは困難。  
オーダー連携していない施設では画像からレポートを作成する場合がある。
- 3) オーダー番号: オーダーと紐づけられるが、PACSで保持していない事があるので、注意が必要。
- 4) レポート番号: レポートシステム内で保持しているユニークな番号。  
ただし単体ではオーダーや画像との紐づけが困難

※施設IDは別のProfileで規定するので不要

# 画像診断レポート委員会：②FHIRについての調査

ここで、現在すでに公開されている「診療情報提供書」について確認した。

診療情報提供書FHIR記述仕様 実装ガイド  
<https://jpfhir.jp/fhir/eReferral/igv1/>



診療情報提供書FHIR記述仕様 実装ガイド  
1.1.5 - release Japan

Home ▾ リソース表 ▾ 改訂履歴 ▾ Artifacts ▾ Validationガイド ▾ パッケージDownload ▾

Table of Contents > 診療情報提供書HL7® FHIR®記述仕様第1.1版 実装ガイド

診療情報提供書FHIR記述仕様 実装ガイド - Local Development build (v1.1.5) built by the FHIR (HL7® FHIR® Standard) Build Tools. See the [Directory of published versions](#)

## 1. 診療情報提供書HL7® FHIR®記述仕様第1.1版 実装ガイド

項目	内容
定義URL	<a href="http://jpfhir.jp/fhir/eReferral/ImplementationGuide/eReferral">http://jpfhir.jp/fhir/eReferral/ImplementationGuide/eReferral</a>
Version	1.1.5
Name	FHIR
Title	診療情報提供書FHIR記述仕様 実装ガイド
Status	Active ( 2024-02-07 )
Copyright	(一社) 日本HL7協会、(一社) 日本医療情報学会. CC(Creative Commons) BY-ND 4.0

# 画像診断レポート委員会: ②FHIRについての調査

## 2. リソース記述に関する表 (診療情報提供書・退院時サマリー 共通)

内容を確認してみると

表10: DiagnosticReportリソース

表14: ImagingStudyリソース

が存在している。

- 表1 AllergyIntoleranceリソース アレルギー情報【6情報共通仕様】 [☞](#)
- 表2 Binaryリソース バイナリーデータ情報 [☞](#)
- 表3 Bundleリソース 文書情報 [☞](#)
- 表4 CarePlanリソース 診療方針指示情報 [☞](#)
- 表5 Compositionリソース 文書構成情報 [☞](#)
- 表5-1 Compositionリソース (退院時サマリー) [☞](#)
- 表5-2 Compositionリソース (診療情報提供書) [☞](#)
- 表5-3 Composition\_sectionの情報構造 [☞](#)
- 表6 Conditionリソース 患者状態情報【6情報共通仕様】 [☞](#)
- 表7 Consentリソース 同意情報 [☞](#)
- 表8 DeviceUseStatementリソース 医療機器使用歴情報 [☞](#)
- 表9 Deviceリソース 医療機器情報 [☞](#)
- 表10 DiagnosticReportリソース 診断報告書情報 [☞](#)
- 表11 DocumentReferenceリソース 文書参照情報 [☞](#)
- 表12 Encounterリソース 外来/入院詳細情報【6情報共通仕様】 [☞](#)
- 表13 FamiliMemberHistoryリソース 家族歴情報 [☞](#)
- 表14 ImagingStudyリソース 画像検査実施情報 [☞](#)
- 表15 Immunizationリソース ワクチン接種情報 [☞](#)
- 表16 MedicationRequestリソース 処方依頼情報【6情報共通仕様】 [☞](#)
- 表16-1 MedicationRequest.dosageInstruction 処方情報の用法指示情報【6情報共通仕様】 [☞](#)
- 表16-2 Extension (InstructionForDispense) 調剤指示拡張情報【6情報共通仕様】 [☞](#)
- 表17 MedicationStatementリソース 服薬情報【廃止】 [☞](#)
- 表17-1 MedicationStatement.dosage 処方依頼情報の服薬用法情報 [☞](#)
- 表18 Observationリソース 検査【6情報共通仕様】・観察情報 [☞](#)
- 表19 Organizationリソース 文書作成医療機関情報 [☞](#)
- 表20 Organizationリソース 診療科情報【廃止】 [☞](#)
- 表21 Patientリソース 患者情報【6情報共通仕様】 [☞](#)
- 表22 Practitionerリソース 文書作成責任者情報/文書管理責任者情報 [☞](#)
- 表23 Procedureリソース 入院中治療処置情報 [☞](#)
- 表24 RelatedPersonリソース 患者関係者情報 [☞](#)
- 表25 ResearchStudyリソース 研究対象情報 [☞](#)
- 表26 ResearchSubjectリソース 研究対象情報 [☞](#)

# 画像診断レポート委員会：②FHIRについての調査

表10: Diagnostic Reportリソース

表10 DiagnosticReportリソース 診断報告書情報

要素Lv1	要素Lv2	要素Lv3	要素Lv4	多重度	型	値	説明
resourceType						"DiagnosticReport"	<b>DiagnosticReport</b> リソースであることを示す
meta				1..1	Meta		
	lastUpdated			1..1	instant		最終更新日時。YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sss+zz:zz (例. 2015-02-07T13:28:17.239+09:00)
	profile			0..*	canonical(StructureDefinition)	"http://jpfhir.jp/fhir/core/StructureDefinition/JP_DiagnosticReport"	準拠しているプロファイルを受信側に通知したい場合には、本文書のプロファイルを識別するURLを指定する。検査種別によって適切なプロファイルがJP-Coreで定義されている場合にはそれを使用する。
text				0..1	Narrative	<b>所見</b>	本リソースをテキストで表現したものをに入れてもよい。
	status			1..1	code	"generated"	固定値。テキスト内容の全てがリソースのコンテンツから生成されたことを示す。
	div			1..1	xhtml	<div xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml">xxx</div>	値は例示。
identifier				0..1*	Identifier	<b>Accession番号など</b>	この検査レポート情報に付番されたID
	system			1..1		" http://jpfhir.jp/fhir/core/IdSystem/resourceInstance-identifier "	
	value			1..1		"1311234567-2020-00123456"	検査レポート情報IDの文字列。値は例示。

# 画像診断レポート委員会：②FHIRについての調査

表10: Diagnostic Reportリソース

status			1..1	code	"final"  <b>レポートの状態</b>	検査・観察のステータス。 コード表： <a href="http://hl7.org/fhir/terminology/CodeSystem/v2-0074">"http://hl7.org/fhir/terminology/CodeSystem/v2-0074"</a> registered：登録済・参照不可 partial：部分的に報告 preliminary：暫定報告 final：最終報告 amended：修正版 corrected：訂正版 appended：承認済み cancelled：取消し entered-in-error：エラー unknown：不明、
category			0..1*	CodeableConcept	"http://terminology.hl7.org/CodeSystem/v2-0074" "CTH"	診断サービスの種類区分。 【コード表】 <a href="http://hl7.org/fhir/valueset-diagnostic-service-sections.html">http://hl7.org/fhir/valueset-diagnostic-service-sections.html</a> "CTH"は、Cardiac Catheterizationのコードの例示。
code			1..1	CodeableConcept	"http://loinc.org"	検査・診断レポートの名称とコード。 【コード表】 SS-MIX2文書コード表のうち報告書のカテゴリ部分を使用する。これはLOINCコードに準拠している。 コード表に該当しない場合、テキスト記述だけでもよい。
subject			1..1	Reference		患者を表す <b>Patient</b> リソースへの参照。

# 画像診断レポート委員会：②FHIRについての調査

表10: Diagnostic Reportリソース

encounter				0..1	Reference(Encounter)		検査・観察が実施された受診情報（外来受診情報または入院詳細情報）
(effective)							このレポートの対象となった検査・診断が実施された時期。 4通りのいずれかの子要素（effectiveDateTime、effectivePeriod）のひとつを選択して、それにより記述する。複数を選択はできない。effective要素は記述しないで、直接effectiveDateTime要素のレベルを記述する。
	effectiveDateTime			0..1	dateTime	<b>レポート記載日時</b>	日時
	effectivePeriod			0..1	Period		期間
		start		0..1	dateTime		開始日時
		end		0..1	dateTime		終了日時
performer				0..1*	Reference(Practitioner   PractitionerRole   Organization)	<b>レポート確定者</b>	このレポート診断内容に責任をもつ者。
resultsInterpreter				0..*	Reference(Practitioner   PractitionerRole)	<b>レポート入力者</b>	主たるレポート作成者（検査結果判断者）
specimen				0..*	Reference(Specimen)		この検査の検体・対象情報
result				0..*	Reference(Observation)		検査の場合の検査結果情報への参照。
imagingStudy				0..*	Reference(ImagingStudy)		画像検査の場合の実施情報への参照。



# 画像診断レポート委員会: ②FHIRについての調査

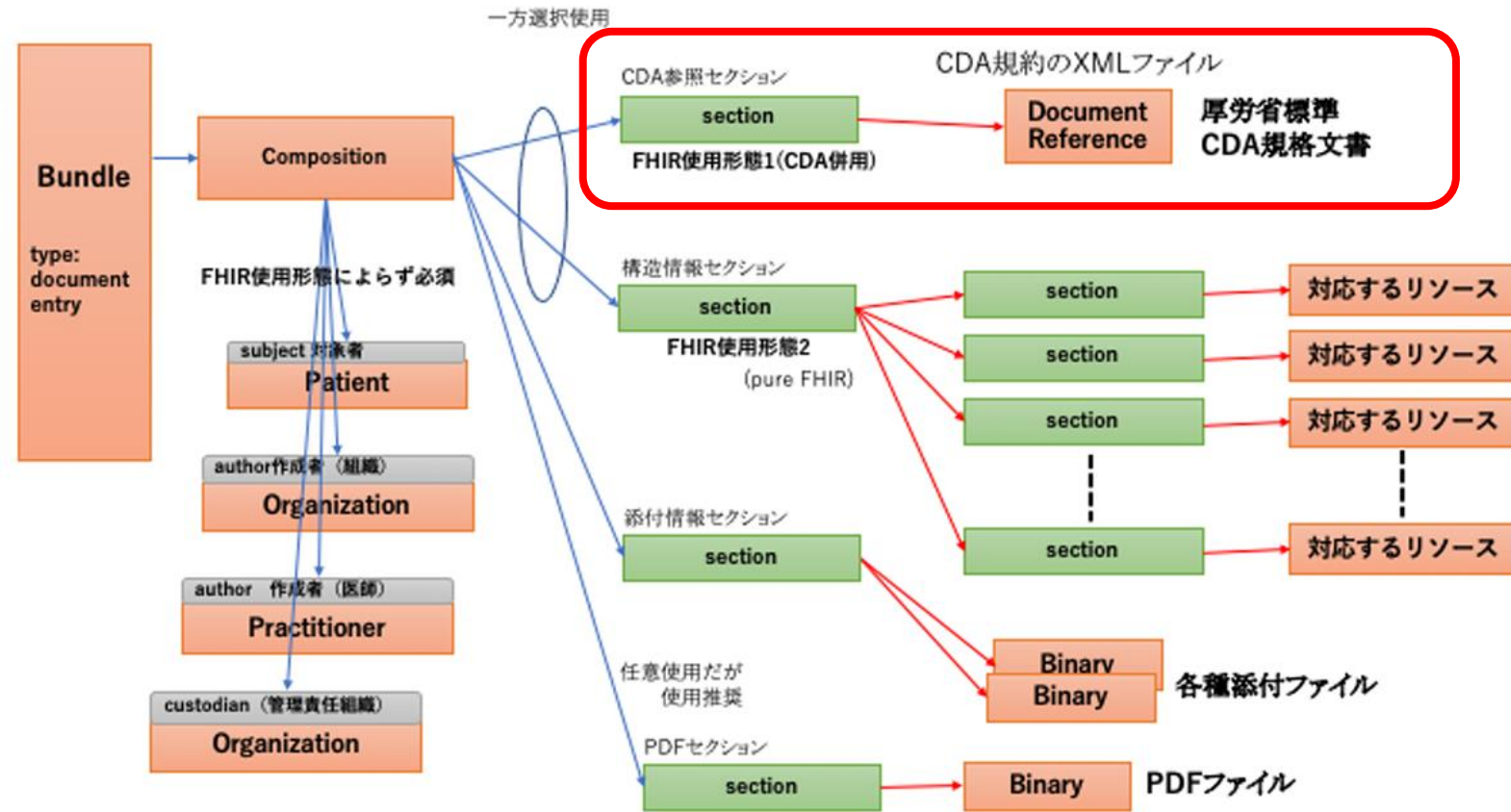
表10: Diagnostic Reportリソース

media			0..*	BackboneElement	<b>キー画像(添付画像)</b>	このレポートに関連するキー画像。
	component		0..1	string		キー画像に対するコメント(説明)記述。
	link		1..1	Reference(Media)		画像ソース情報への参照
conclusion			0..1	string	<b>診断</b>	臨床診断(解釈)の叙述的な記述。
conclusionCode			0..*	CodeableConcept	"urn:oid:1.2.392.200119.4.101.6" "E48A" "胃癌" <b>診断コード</b>	臨床診断(解釈)、所見のコード表現。 system値はMEDIS標準病名マスター病名交換用コードを使用する場合の例示。"E48A"は、MEDIS標準病名マスター病名交換用コードで"胃癌"のコード。
presentedForm			0..*	Attachment	<b>添付情報</b>	診断レポートそのもののデータを添付情報として格納する。
	contentType		0..1	code		データのMime typeコード。
	data		0..1	base64Binary		データを埋め込む場合、base64形式でここに埋め込む。 データを埋め込まず、次の要素urlで参照する方式でもよい。
	url		0..1	url		データを取得できるURL
	title		0..1	string		診断レポート添付情報のタイトル

# 画像診断レポート委員会: ②FHIRについての調査

## 診療情報提供書DocumentのBundleリソース

CDAファイル併用でも構わない



## 【ここまでで分かったこと】

- ・FHIRのDiagnostic Report Radiology(放射線レポート)は、完成されている。
- ・注意しなければいけない項目として「Identifier」があり、通常はAccession番号やオーダー番号を入れる。
- ・FHIRでは、バンドルと呼ばれる複数のリソースを組み合わせて使用する。
- ・FHIR使用形態として、CDAファイルの併用が認められている。

結果、CDAをそのまま使用しても、FHIRのDiagnostic Report Radiologyリソースを使用しても構わない。  
また、欧米では放射線レポートに関してはCDAの方が普及しているという情報も得られた。

当委員会としては、独立して使用できるCDA形式を、今後もサポートしていく方針とした。

# 画像診断レポート委員会：③放射線レポートの既読管理セミナー

JIRA10月度政策企画会議／特定テーマ講演にて、  
「放射線レポートの既読管理セミナー」というタイトルで講演を行った。

2022年12月に行われた既読管理セミナーに続く第2弾で、  
・今回はなぜ見落としが発生するのか？  
・画像診断レポートのワークフロー  
など初心者にも分かりやすい内容を含めて説明を行った。



外来患者が検査を受けても、すぐにレポートは出来ない。  
主治医の結果確認が次回になると、緊急の症例の対応が遅れるケースがある。

# 画像診断レポート委員会：④パンフレット制作

当委員会では画像診断レポートのCDA普及の為にパンフレットを制作していました。  
2015年に発行したパンフレットは、当時の目的であった  
「レポートベンダー間でのデータ移行」を目的として作成されていました。

2015年当時のパンフレット(一部)



この度JIRAシステム部会画像診断レポート委員会では、放射線の画像診断レポートシステム間でのデータ移行の際の障害となっていた、レポートデータ項目のベンダー間での不統一を解消すべく、標準的なデータ項目およびデータフォーマットについてのガイドラインを策定いたしました。

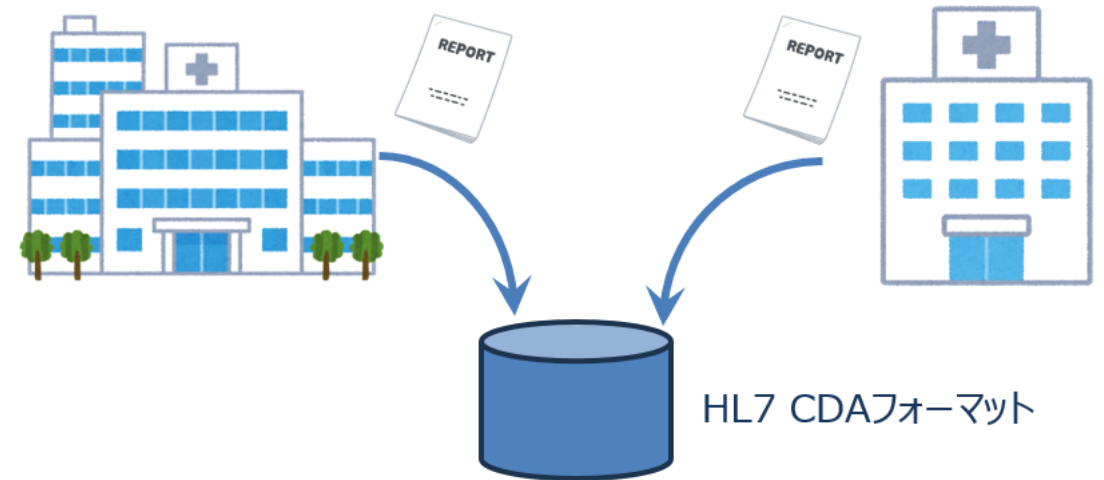
今回は、データ交換を目的とはせず、CDAの有効性をアピールするために内容を変更しました。  
今後、ホームページで公開及び学会等で配布する予定です。

## 放射線画像診断レポート 構造化記述について

JIRA画像診断レポート委員会では、2015年に「放射線画像診断レポート交換手順ガイドライン」を策定しました。  
このガイドラインは当初ベンダー間でのデータ移行用に進められたものですが、HL7 CDA R2に準拠しているため、今後様々な場面での活用が考えられます。

### ■研究目的のデータの蓄積(特に多施設データの蓄積)

AI画像診断が進む中、レポートのデータと画像を蓄積して学習させたいというニーズが高まっています。  
今まではレポート保存についてはCSV形式やXML形式で独自の項目で保存しているケースが多かったのですが、多施設のデータの場合は整合性が取りにくくなります。  
HL7 CDA R2に準拠した構造化記述を用いる事で、多施設のデータでも互換性を保つことが出来ます。



# 画像診断レポート委員会：⑤来期の予定

- (1) 画像診断レポートのCDA普及活動  
まだまだ使用されているケースが少ないので、今期作成したパンフレットを配布して学会等を通じてアピールしていきたい。
- (2) JAHIS・医療情報学会等、他団体の動きを注視して、必要に応じて調査・共同作業などを模索。  
FHIRを使用したPHRの話題が出てきているので、情報収集をしていく。
- (3) レポート見落とし防止(既読管理)  
セミナーも開催済であるが、引き続き見落としが無くなるように普及させていきたい。

御清聴 ありがとうございました。